

2018年 北海道150年のとしに



一般財団法人北海道開発協会会長

内田 和 男

明けましておめでとうございます。皆様には清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、道民にとって大きな喜びだったのは、一昨年8月の豪雨で大きな被害を受けた農業をはじめとする道内産業に復興の兆しが見え、さらに10月末に国道274号日勝峠の通行止めが解除になったことではないでしょうか。通行止めに伴い、道東自動車道の代替路措置が講じられ、その影響は最小限に抑えられましたが、やはり道央と道東を結ぶ基幹となる国道が支障なく通行できることが、社会経済活動の基本であり、住民の安全・安心にもつながります。

274号の被災は、道路本体の欠損、橋梁、覆道の損壊等広範にわたる大規模なものでしたが、復旧工事がこれほど早期に完了できた背景には、関係者の並々ならぬご尽力はもちろんですが、ドローンや3次元レーザー測量、ICT土工などのICT技術の活用がありました。ICT技術は、行政・医療・教育・産業等のあらゆる分野において新たなサービスの提供、効率性の向上や高付加価値化を実現することにより、地域の活性化を支える重要な手段となり得るものであります。特に、北海道は少ない人口が広い大地に分散しており、また、冬期間の厳しい気象条件、地震や火山災害等の自然災害を考えると、防災・減災に関しても、ICT技術のよ

り一層の導入が期待されるところです。

さて、本年は、本道が「北海道」と名付けられて150年の節目の年です。北海道の開拓・開発事業の中で、先人たちは、道内に広く分布する泥炭地を開発し、洪水調節や農業用水確保のためのダムを建設して、日本の食料基地北海道を築き上げてきました。あわせて、広域に分散する人々をつなぐ道路網を整備し、北海道と本州、世界を結ぶ港湾・空港を建設するなど、身を削るような努力をしてきました。私たちはその成果の上にいます。

今年は特に「温故知新」を意識し、改めて北海道の歴史を振り返り、今一度多くの苦難を乗り越えてきた先人たちが残してくれた様々な遺産によく学び、先人たちの心意気、本道をより豊かにしたいとの気概に触れ、そこからまた何かを知り、新しい意味や価値を再発見していきたいと考えます。

北海道開発協会としてもさらに豊かな北海道の創出に向け、地域活性化に資する調査研究、広報活動、研修会の開催など各種公益事業を、産学官民と連携しつつ積極的に実施していきます。

新しい年がもっと輝く北海道を創出し、皆様にとっても幸多き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。